

No.60 2024年3月









#### ~ つなぐ ひろげる 5つのストーリー ~

















センターでの学びを日々の生活に生かし、豊かに生きることにつなげている人たちの 現在進行形を紹介しています。



## 何かやりたいと思える 「場」づくり

かなさ (元・真庭市交流定住センター) 池田 恭子



この事業は ファシリテーション・コーディネーション スキルアップ講座

生涯学習・社会教育担当者等を対象にした、2日間連続の研修講座。事業を中長期 的にわたって実施していくために、どのようなことに考慮し取り組んでいけば良いのかを 学びます。また、ファシリテーションの場面を模擬体験し、事業の関係者と合意形成の 方法についても実践的に学んでいきます。事業の立ち上げから実行までをジブンゴトと して体験し、コーディネーションのスキルアップも図ることができます。

ファシリテーションって、参加者の思いを引き出すことが大事って聞いていましたが、なかなかよくわ かりませんでした。質問とかインタビューとか苦手なので、ちゃんとできるようになったらいいなあと思い、 学ぶ機会を探していたんです。

最初は、ファシリテーションの型に当てはめるという技術的な部分を中心に吸収しました。本当に分か らないまま始めたんですけど、型通りにやればできるというのが実践の中で分かってきました。

学んだことを仕事で実践していくうちに、新しい疑問が生まれてきました。次の年の研修にも参加して、 その部分を重点的に聞くようにしたんです。

研修で、準備を綿密に行うことはとっても大切だと気づきました。講師の先生は事業計画書などを綿密 に作られていて・・・頭の中には、細かいタイムスケジュールがあったんです。まさに「段取り8割」だ と思いました。

丁寧に準備をすることが大切だとわかると同時に、私自身が段取り好きだっていうことにも気づいたん です。加えて、場づくりに対しての姿勢、集ってくれた人への対応、そんなことを全部感じてもらって、 居心地のいい空間をつくることができたらって思うようになりました。

ワークショップをするときに、いちばん意識していることです。

現在、1回1回のワークショップに1番いい効果が出せるやり方を考え、毎回研修をオーダーメイドで 行っています。1つとして同じ会をしたことはありません。ワークショップを依頼してくださった方と、 どのような結果をお返しするかをとことん詰めます。100%で頼まれたら、110%ぐらいにして、"期待値 のちょっと上"で返すことを大事にしています。来てくださった方にも、"いい感動"を持って帰ってもら えるようにしたいんです。

「なんかうちの息子が、ものすごく楽しかったって言って帰ってきました。また来てください。」って保 護者の方に言われました。すごく喜んでおられることが分かって、やりがいを感じましたね。

みんな話したいんですね。聴いてもらえると嬉しくて、何かしたくなる。

聴く"って大事です。"聴いて、思いを引き出す"ことは必ず参画につながっていくと思うんですよね。



ふるばやしローカルデザイン事務所 代表 古林 拓也

初め、池田さんはこの研修講座でファシリテーションスキルを学んでいましたが、現在では、仕事の在り方や人 と協働するときの姿勢を学ばれています。実践されている現場でも、池田さんが触媒になり、真庭の地域コミュニ ティーの参加者層が厚くなって、同じ仲間の裾の尾が広がっています。

研修に参加されたみなさんは地域作りのコミュニケーションの基盤を作るための助けとして研修に向き合ってい ます。この講座が、「地域の創発がおきるところの震源地」として、果たしていければ幸いです。

2 □ 岡山県生涯学習センターだより 60号



### 今この "瞬間"が "ミライ"をつくる

#### 岡山市立御南西公民館 主任 長崎 百絵

『住民の主体的参画』このワードに惹かれました。そんな方法があるなら、ぜひ!知りたいと 思って……。

私は、実在(現在)の人物(地域の人々)を意識して、限られた時間の中で目的を達成する にはどうしたらいいかを考えて事業を計画してきました。これまでのやり方を見直したいなと 思っていた時だったので、余計に惹かれたのだと思います。

"地域課題の解決にあたるのは社会教育行政ではなく住民である"

地域づくりの原点に出会った気がします。住民が地域のことを本当に考えるようになると、す ごい力になると思うんですよね。地域の人にどうなってほしいか、"目指す住民像"を意識して 事業を考えていきたいと思うようになりました。

それには、"頭の中にある構想を紙に落とす"作業が欠かせないということも学びました。自 分は何のために、何がしたくて、どうするのかをしっかり描いておかないと、途中でブレてしまっ て、いい事業になんかならないですよね。次の課題も見えてこないと思うんです。

御南西公民館では、環境学習とごみ回収活動の両輪で、地域・若者(主に中学生)とともに 海川ごみ問題の解決をめざす「みなんモデル」を実施してきました。私は日頃から、みんなが 安全安心に楽しく暮らすために、公共の福祉に配慮できる人が地域に増えてほしいと願ってい るので、この研修での学びを活かし、参加者にどのような投げかけができるのかを考えてみま した。

若い人達には、"今この瞬間、足元から世界を変えていける"と自覚し、今後も様々な地域活 動に参画する大人に育ってほしいと思っているので、用水路がどのようにして人の手で守られ てきたかについて知り、川掃除を通じてこれからの川と人とのつながりを考える講座にしてみ ました。

私は、事業づくりが好きです。自分の中にある"想像力"と"創造力"の両方が実現できるこ とは楽しいですから。

地域はみんなの財産だから、未来を意識して、地域も人も輝けるような事業を企画できたら いいですよね。

この事業は

主体的に参画する 住民を育てる事業づくり

地域課題を解決するのは行政ではなく地域住民であるという立場で、地域の課題を一 番肌で感じている人たちが課題を見つけ、解決方法を探し、行動に移すことができるよ うに仕掛ける事業・講座を考えます。

さらに、上位計画を意識し、評価方法も学んでいきます。住民を主体とした魅力ある 事業づくりのための研修です。



#### 岡山市教育委員会生涯学習課公民館振興室 副主査(社会教育主事) 塩瀬 香織

岡山市の公民館では、いま若者の地域参画を進めていますが、長崎さんの取組はその先 進事例のひとつです。この研修を受けて、新たな視点で事業づくりを見直したことは、長崎 さんにとってとても有意義なことだなと思います。

昨年、私も同様の研修を受けましたが、地域課題の捉え方や、事業づくりを1からT寧に 組み立てる作業を通して、多くの学びがありました。職員自らがアップデートしていくために も、このような研修を有効に活用していきたいと思います。





#### 背中を押してくれるのは 地域の温かさ

就実大学 山本 直弘



地域の伝統、長蔵音頭を復活させたいなっていう思いがあって、でも一人じゃできないことで、「一緒に こんなコトレませんか、助けて(力を貸して)ください|って気軽に言える環境があったから、「やってみ よう! | って雰囲気が地域に広がったのかなと感じました。

練習に集まる人の一番の目的はお喋りや子どもの顔を見るためなんです。まずはお喋りしながら交流、 次に踊りを練習します。

「よく踊れましたね、みんなでカレーを食べましょう」

長蔵音頭を中心に地域がつながってる感じでした。

地域って、いろんな方向からライトを当てると影が薄くなるように、コミュニティを構成している様々 な立場の人の視点で見ることで、自然とみんなが住みやすくなると感じたんです。

学んだことを整理していくと、研修での体験・気づき・学び・気持ちがキーワードになり、それぞれが 繋がり、視野が一気に広がって「すげー!」って思いました。

地域の方々から学んだことや、自分の考えを発信したいって思いました。失敗したら多少傷つくけど、 それも良い経験だと思ったんです。

自分から一歩踏み出そうと思えたのも、地域の方々が温かく迎えてくださったおかげだと思います。僕 は地域のそういうところが好きです。

この事業は

若者発! まちプロ

大学生を対象にした全4回の人材養成研修。岡山県地域おこし協力隊ネットワークと連携して行っている事業です。 協力隊の卒業生や地域づくりの第一線で活動している人のところへ二泊三日程度の実践トライアルに行きます。 地域の一員として活動し、地域の現状に触れ、地域課題をどう捉え、解決しようとしている若者の姿を見ることで、 自分にも何かできることがあるのではないかと、自らも主体的になる若者の育成を目指しています。

### 無意識に向き合うことで 得られた原動力

ノートルダム清心女子大学 山口 楓



インターンは ." 短いけれども長かったな " ……これは小さい頃の感覚に似ていて、色々な事が真新しく、 全てに興味があって、やってみようと思っていたからなんですよね。

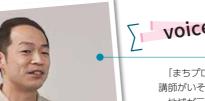
川で、ナマズをガシッと押さえつけて捕まえたり、片っ端から穴に手を入れて魚を探したり……「やっ ぱりおもしろいな。」「小さい頃の私はこうだったなぁ」って思い出したんです。

自分は、なぜそうしたのか、そう思ったのか、自分と対話する時間が多かったです。意識して行動する ことで得られたものも多かったですが、無意識の自分と向き合うことで、次の目標へ動き出すきっかけを 見つけられました。

今までの私は、挑戦したいことに関して「やっぱり辞めておこう」と思ってしまっていました。周りが どう思うか考えてしまって。

「まちプロ」で関わった人たちは、それを良い意味で気にしていなかったんです。その姿を見ていて、自 分の中で声をとどめるのではなく、発信してみると意外にも周りの人は共感して応援してくれる立場になっ てくれるかもしれないって思うようになりました。

自由に自分を表現できる場所があることの大切さに気付きました。



「まちプロ」の良さは、「地域に行ってもいい」と道筋を示しているところ、安心して学べる環境があるところ、 講師がいそうでおらず体験重視で自ら学べるところです。

地域が元気になるためには、地域の人々や活動を認めてあげる・承認することも必要なんです。だから、お二人 が地域に入り意欲的に活動してくれたことで、取組の後押しになったと思います。二人が学んだことが将来、 課題や高いハードルを乗り越えていく一番の近道になるかもしれません。社会に出てからもこの研修で経験した ことを活かしてもらいたいですね。



## 笑顔あふれる町は 「つながり」からはじまる

里庄町中央公民館 公民館職員 藤井 成加



手話サークル『わかば』 山本 三枝



藤井さんのおかげで、今では文化協会の方々ともつながることができました。さまざまな団体と協力し、 講座を行うことで、手話サークル『わかば』の活動の幅が広がっています。それがろう者にとっては自己選択・ 自己決定につながり社会参加ができることにつながっていくと実感しています。

手話サークル『わかば』のみなさんも交流を楽しみ、笑顔が増え、大きなつながり、ひろがりが見えています。 これからどんな活動ができるのか、私自身楽しみです。



"私の知りたいこと"が学べました!

以前、教師をしていたこともあり、学校教育から社会教育という道に入って、違いはどこにあるのだろうという思いがずっとありました。研修会に参加して"公民館の役割"社会教育とは"公民館職員に求められている立場"が分かってきました。さらに、公民館職員の方々との交流を通して、"ウォーキング"や"ボランティア"などの取り組みを知り、「里庄町中央公民館でもできるかな?」と思いました。

公民館職員として働く中で、地域の方と公民館の利用者がつながり、町が元気になってほしいという 思いがあります。つながりの大切さを感じていたとき、手話サークル『わかば』の山本さんから「文化協会(当公民館で活動中)と一緒に活動をしたいと思っているのだけど、どうしたらいいですか?」というご相談を受けました。「これはチャンスだ!」と思いました。

2つの団体をつなげば、みなさんの心と生活が豊かになり、地域を活性化することができるにちがいないと思ったのです。思ったとおり、参加者同士がつながり、みなさんが自信をもっていろいろな活動ができるようになっていると感じています。さらに、新しいことに積極的に取り組むようになり、みなさんの"笑顔"が増えました。

公民館では、里庄虚空蔵大学(高齢者学級)のみなさんも活動されています。大正琴·陶芸·着付など、 専門講座の受講生も小学校の出前講座など地域で活躍してくださっています。

総合講座で講師の先生から手話とのコラボのお話があった時、山本さんに相談したらすぐ協力してくださいました。二胡にあわせて童謡『ふるさと』の手話をみんなで表現することができました。オカリナコンサートでは、手話サークルのみなさんから教えていただいた手話が参加者から自然に出ました。

もちろん、研修会で学んだことが、すぐ活かせないときもあります。今できなくても必ずいつかできる。 あきらめずにチャンスを一つひとつ、つないでいくよう心がけています。

当公民館では、赤ちゃんから 90 歳近くの方まで、分け隔てなくお互いに声をかけ合い、優しく接している姿をよく見かけます。"みんなが元気でかがやける町""笑顔あふれる町"をめざして仕事ができたらいいなと思っています。

研修会で教えていただいたことを軸にして業務にあたり、研修会で出会った先輩方がかけてくださった「公民館だけで全部できていなくても町全体でできていればいい」という、心強く勇気の出る言葉を胸に、多様な主体との連携、まちのステキをつないでいきたいと思います。

岡山県公民館連合会 研修会

公民館活動の活性化のために年間5回開催しています。地域課題の解決や人づくり・つながりづくり・ 地域づくりに向けて、多様な主体と連携・協働を図ったり、地域住民を巻き込んだりしながら公民館活動を展開するために求められる資質や技術の向上をめざして、講座づくりや、広報の工夫などについての研修を実施しています。

各公民館の頑張りや新たな挑戦、ちょっとした工夫などを「おすすめ講座」の中で紹介します。エントリーのあったおすすめ講座から公民館職員の投票により選ばれた上位三館を表彰する「公民館職員が選ぶ! 講座アワード」を開催しています。



# 仲間といっしょに 「特別」をつくる

大学生 三木 円香・原口 美奈子・近藤 花恋

「一緒にやらない?」と誘われて、将来のためにも色んな考え方ができるようになりたいと思って始めました。何度もするうちに、内容も自分もブラッシュアップされていくんです。

イベント後に、必ずみんなで"振り返り"をやります。次はもっと良くなるようにいいアイデアはないかな~ってみんなで考えながら、次への準備をします。

"やりっ放しじゃない"そのサイクルがとってもいいんです。大学も学年も違う人が集まって、意見を出し合う。多様な考え方に触れて、自分の幅も広がった気がします。

結果じゃなくて、みんなでつくっていく過程が、本当に楽しいです! (三木)



「やっぱり子どもが好きだな。」と実感しました。

失敗も含めて、たくさんの小学生と関わることができたのは大きかったです。 確実に、自分の視野と考えが広がって、新しい価値観を得ました。

大学をこえて、先輩・後輩とつながれたのも自分の成長につながっていると思います。絶対出会うことができなかった人と出会うことができた私は、"ラッキー"ですよね。(原口)

#### 「自分にできることがあるならやってみたい!」

仲間と一緒に活動できるのが魅力です。自分たちで企画から運営、また新しいことを始めるときに、ひとりじゃなく仲間がいるから、"何とかなるかな"と思えます。いろんな人の考えやアイデアを聞くことで、自分の考えが広がっていきました。

どんなゲームをして、どんな場づくりをすれば"つながり"ができるのかな、といつも考えているけど、気付けば、私たちもその"つながり"の中にいて、その場を楽しんでいたんです。楽しいなって思った後には、やっぱり「子どもの笑顔が好き」だなって気持ちが大きくなっていました。(近藤)



教員 尾頃 太紀 早瀬 友絵 月原 愛梨

企画から運営まで全部自分たちでするので、仲間とコミュニケーションを取りながら、目的を共有していくことが大切です。 話していくうちに、得意なこととか、見ていることとかが人それぞれで違ってくるなっで… でもそれって、みんなのいいところなんですよね。「じゃあ、どう取り入れていこうかって」考えました。 企画 Lab. では、たくさんの"いいとこ"をミックスすることを学びました。そのことは、教員となった"いま"、いろんな場面で

これは、社会人になってどんな職場で働くことになっても大切 なことなんじゃないかなって思います。



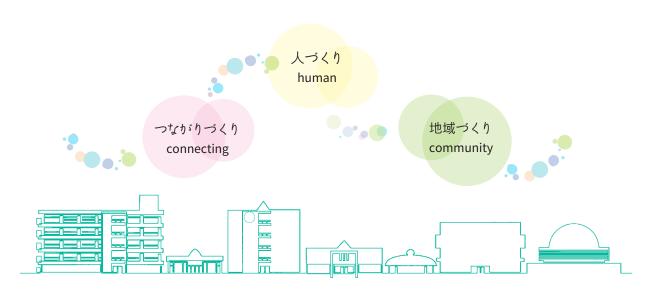
*……* この事業は ⁄

活かされてます。

企画 Lab.

大学生を中心に、高校生も活動に参加しています。活動の内容は、子どもを対象として、参加者相互のつながりのできるイベントを企画・運営します。学生は、年齢や遊びの内容によってチームをつくって活動しています。「学校や家庭ではできない体験」「先生、親、兄弟、同級生同士ではなく、異年齢が関わるナナメの関係づくり」「参加者同士のつながりづくり」ができるような活動を目指しています。

10 | 岡山県生涯学習センターだより 60 号



Okayama Prefectural Lifelong Learning Center

#### 発行: 岡山県生涯学習センター

振興課 ☎086-251-9788

〒700-0016 岡山市北区伊島町三丁目1番1号 https://www.pal.pref.okayama.jp/ https://www.facebook.com/okasyogaise/

開所時間 火曜日~土曜日:午前9時から午後9時まで

日曜日・祝日:午前9時から午後5時まで

休 所 日 月曜日(その日が祝日に当たるときを除く。) 祝日の翌日(その日が祝日でない火曜日から金曜日までに当たるときに限る。)

12月28日から翌日の1月4日まで

アクセス \_車 JR岡山駅運動公園口(西口)から約5分/山陽自動車道岡山ICから約10分、伊島小学校前を西進、つきあたり

<u>バス</u> 岡電バス:JR岡山駅運動公園□(西□)から中央病院線京山入□下車徒歩8分(所要時間約13分)

徒歩 JR岡山駅運動公園□(西□)から約25分(約1.7km)

※駐車場には限りがありますので、できるだけ公共交通機関を使ってお越しください。
※カーナビゲーションで「岡山生涯学習センター」が見つからない場合は、「岡山県立烏城高等学校」と入力してください。

